サポート情報記事

SharePoint Online と Microsoft Teams から Vitextra ソリューションを削除する方法

2026 © Vitextra SIA. 無断転載を禁じます。

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

概要 4

始める前に 4

手順 **1.** ページから **Web** パーツを削除する 5

手順 **2.** サイトからアプリを削除する 5

手順 **3. Microsoft Teams** からアプリを削除する 6

手順 **4.** アプリ カタログからパッケージを削除する 6

手順 **5. API** アクセス許可を取り消す 7

製品が作成したデータ 7

手順 **6.** ライセンスを解放する 9

チェックリスト 9

用語 11

概要

SharePoint Framework (SPFx) 製品は、複数の層に分けてインストールされます。アプリ カタログ内のパッケージ、それを使用するサイト上のアプリ、ページ上の **Web パーツ**、必要に応じて **Teams アプリ**、そして製品のために承認された API アクセス許可です。アンインストールとは、これらの層を逆順にたどることを意味します。**SharePoint** が代わりにやってくれるわけではありません。アプリ カタログからパッケージを削除するのは 1 クリックですが、ページには壊れた Web パーツが、Teams には孤立したアプリが、そして承認済みのアクセス許可がそのまま残ります。

この記事では、ページが壊れないようにする順序で **Microsoft 365** テナントから Vitextra 製品を完全に削除する方法と、製品が作成したデータおよびライセンスの扱いについて説明します。手順は **SharePoint Online** 向けのすべての Vitextra 製品で共通です。SharePoint Server 向け製品のアンインストール方法は異なります。KB10022. SharePoint Server から Vitextra 製品をアンインストールする方法を参照してください。

> メモ
>
> 支払いを止めるために製品をアンインストールする必要はありません。Vitextra アカウントでサブスクリプションをキャンセルすれば、有料期間の終了時に Web パーツは動作しなくなります。アンインストールは、製品をテナントから取り除きたい場合に行ってください。

始める前に

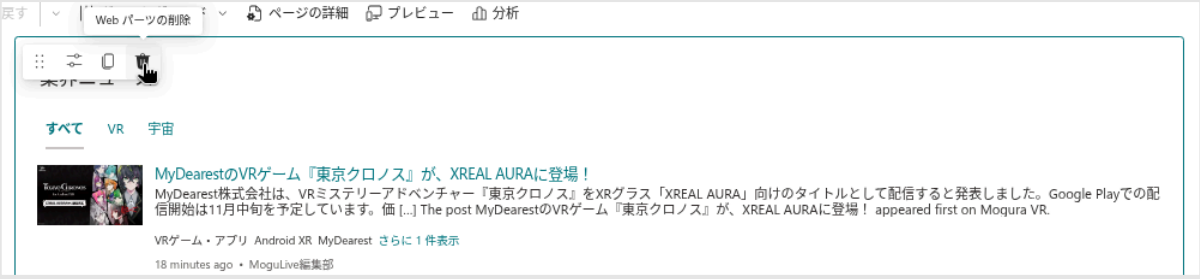
- **製品がどこで使用されているかを把握します。** SharePoint には、Web パーツが使用されているページのレポートがありません。サイトの所有者に確認するか、イントラネットのサイト ページを製品名で検索してください。テナント全体に展開された Web パーツは、どのサイトのどのページにも置かれている可能性があります。
- **データの扱いを決めます。** 一部の製品は、SharePoint リストや OneDrive にデータを保持します (後述の**製品が作成したデータ**を参照)。削除する前に、必要なものをエクスポートしてください。
- **必要なロール。** サイト所有者は自分のサイトから Web パーツとアプリを削除で

きます。**SharePoint 管理者**はアプリ カタログを、**Teams 管理者**は Teams アプリを管理します。API アクセスの管理には適切な権限を持つアカウントを使用してください。KB10360を参照してください。

手順 1. ページから Web パーツを削除する

まずページから始めます。先にパッケージを削除すると、Web パーツがまだ残っているすべてのページで、コンテンツの代わりにエラーのプレースホルダーが表示され、ページの編集者にも編集モードで同じプレースホルダーが表示されます。

1 ページを開き、**編集**をクリックします。
2 Vitextra Web パーツを選択し、そのツール バーにある **Web パーツの削除** (ごみ箱) アイコンをクリックします。
3 ページを**再発行**します。



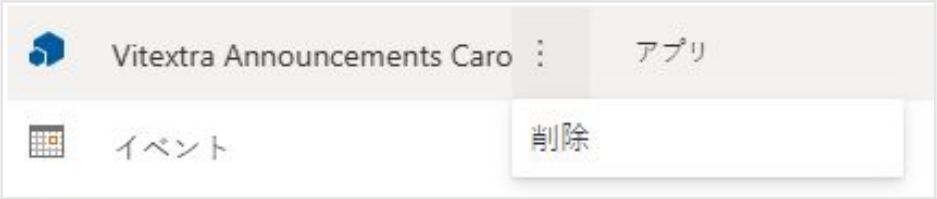
ページから Web パーツを削除する

すべてのページについて繰り返します。Web パーツの設定はページ内に保存されているため、Web パーツを削除するとその構成も削除されます。

手順 2. サイトからアプリを削除する

この手順は、**サイトに個別に追加された**製品 (**コンテンツ → 新規 → アプリ**から追加) にのみ適用されます。**このアプリを有効にして、すべてのサイトに追加する**で展開された製品はサイト コンテンツに表示されないため、この手順は省略します。

1 サイトで**設定 → サイト コンテンツ**を開きます。
2 Vitextra アプリを見つけ、そのメニュー **(...)** を開いて**削除**をクリックします。
3 確定します。



サイトからアプリを削除する

削除されたアプリはサイトのごみ箱に移動し、そこから復元できます。

手順 3. Microsoft Teams からアプリを削除する

製品が **Teams に追加**で Teams に発行されている場合、その製品は SharePoint とは独立して、組織の Teams アプリ カタログにカスタム アプリとして存在しています。

1 Microsoft Teams 管理センターを開き、**Teams のアプリ → アプリの管理**に移動します。
2 Vitextra 製品を名前で検索して開きます。
3 **削除**をクリックし、確定します。

ユーザーがこのアプリから作成したタブと個人用アプリは動作しなくなり、Teams から消えます。アプリのセットアップ ポリシーでアプリがピン留めされていた場合は、ポリシーからも削除してください (**Teams のアプリ → セットアップ ポリシー**)。

> メモ
>
> 管理者がプロパティ ウィンドウの) グループから保存した Teams 個人用アプリの構成 (Employee Directory、Organizational Chart、**RSS** Reader) は、Vitextra ライセンス サービスにテナントごとに保存されています。アプリの削除後は使用されず、次に製品を構成したときに上書きされます。

手順 4. アプリ カタログからパッケージを削除する

1 SharePoint 管理センターで**その他の機能 → アプリ → 開く**を開き、**アプリの管理**ページに移動します。
2 Vitextra パッケージを選択し、**削除**をクリックします。確定します。

3. パッケージは**アプリ カタログ サイトのごみ箱に移動します。完全に削除するには、アプリ カタログ サイトを開き (アドレスはアプリの管理に移動してそこで

パッケージを削除し、さらに第 2 段階のごみ箱**からもう一度削除します。それまでは、パッケージを復元できます。

警告

パッケージを削除した時点で、残っているすべての Web パーツ インスタンスが動作しなくなります。手順 1 で見落としたページや、アプリを削除しなかったサイトでも同様です。再び動作させるには、パッケージをごみ箱から復元する必要があります。製品が広く使用されていた場合は、先に無効化することを検討してください。パッケージを選択し、**プロパティ**を開いて**有効**のチェックを外し、サイトの所有者からのフィードバックを待ってから削除します。

製品が**サイト コレクションのアプリ カタログ**からも展開されていた場合は、それぞれのサイト コレクションの **SharePoint 用のアプリ** ライブラリから同じ方法で削除してください。

手順 5. API アクセス許可を取り消す

パッケージを削除しても、そのために承認された **Microsoft Graph** や **Azure DevOps** のアクセス許可は取り消されません。付与はテナント全体に適用され、すべての SPFx ソリューションで共有されているため、他のソリューションが必要としていない場合にのみ取り消してください。

1 SharePoint 管理センターで**詳細設定**を展開し、**API アクセス**を開きます。
2 **承認済みの要求**タブでアクセス許可を選択し、**アクセスの削除**をクリックします。削除した製品だけが使用していた各アクセス許可について繰り返します。

各製品のアクセス許可と、付与が共有される仕組みについては、KB10360. SharePoint 管理センターで Vitextra ソリューションの Microsoft Graph API アクセス許可を承認する方法で説明しています。API アクセス許可のない製品 (List Filter Online、Smart Tiles、Quick Poll、QR Code Generator、Announcements Carousel、Questions & Answers、RSS Reader、Smart Search) では、この手順は省略します。

製品が作成したデータ

Web パーツやパッケージを削除しても、それが扱っていたデータが削除されることはありません。製品ごとに何を残すかを決めてください。

製品	データの場所	対応
Absence & Coverage	選択したサイト上の 6 つの SharePoint リスト: *AbsenceTypes*、*Absences*、*Substitutions*、*Balances*、*Holidays*、*Settings*	必要に応じて Excel または CSV にエクスポートしてから、リストを削除する
Quick Poll	サイト上のリスト *Vitextra Quick Poll Questions* と *Vitextra Quick Poll Responses*	通常のリストとして残すか、削除する
Questions & Answers、Announcements Carousel	Web パーツ用に選択または作成されたカスタム リストまたはお知らせリスト	通常のリストとして残すか、削除する
Password Vault	各ユーザーの OneDrive のアプリケーション フォルダー (*Apps* フォルダー) にある暗号化されたファイル *json*	削除前にユーザーがエントリをエクスポートし、ファイルは自分で削除できる
Employee Details	ユーザーが編集したプロファイル フィールドは、Web パーツではなく **Microsoft Entra ID** のプロファイルに保存されている	クリーンアップするものはなし。データはユーザー プロファイルの一部として残る
Employee Directory、Organizational Chart、My Tasks、Smart Search、RSS Reader	Microsoft 365 または外部フィードからデータを読み取る。ページ上の Web パーツ設定以外に SharePoint に作成されるものはない	クリーンアップするものはなし

製品	データの場所	対応
Smart Tiles、QR Code Generator、List Filter Online	ページ上の Web パーツ プロパティ内の設定	手順 1 で Web パーツと一緒に削除される

一部の製品がブラウザーに保持するデータ (Employee Directory と Organizational Chart のディレクトリ キャッシュ、My Tasks の個人用ビュー設定、List Filter Online の保存済みフィルター、Smart Search の保存済み検索) は、サイトのブラウザー データが消去されるまでユーザーのデバイスに残ります。完全な一覧については、KB10363. Vitextra 製品がデータを保存する場所: プライバシー、データ所在地、GDPRを参照してください。

手順 6. ライセンスを解放する

アンインストールしてもサブスクリプションは変わりません。vitextra.com にサインインし、**Account → My Subscriptions** (アカウント → マイ サブスクリプション) を開き、サブスクリプションを選択して、テナントのライセンス割り当てを **Remove** (削除) する (別のテナントでライセンスを使用する予定の場合) か、**Cancel Subscription** (サブスクリプションのキャンセル) を実行します。手順は KB10037. Vitextra サブスクリプションを管理する方法で説明しています。製品が試用版のみだった場合は、何もする必要はありません。

メモ

後で製品を再インストールしても、試用期間は最初からやり直しになりません。試用期間はテナントと製品に紐づいています。試用期間が既に終了している製品は、再インストール直後にライセンスが必要になります。

チェックリスト

1 すべてのページから Web パーツを削除し、ページを再発行した。
2 個別に追加されていたすべてのサイトからアプリを削除した。
3 Teams 管理センターでカスタム アプリを削除し、セットアップ ポリシーからも削除した。
4 テナントのアプリ カタログ (およびサイト コレクションのアプリ カタログ) と両方のごみ箱からパッケージを削除した。

5 この製品だけが使用していた API アクセス許可を **API アクセス** ページで削除した。
6 データをエクスポートした、または意図的に削除した。
7 ライセンスの割り当てを削除した、またはサブスクリプションをキャンセルした。

用語

Azure DevOps
Azure DevOps Services (旧称 Visual Studio Team Services) は、バージョン管理、要件管理、ビルドとリリースの自動化パイプライン、テスト機能を提供するクラウドベースの製品です。

Microsoft 365
Microsoft 365 は、Word、Excel、PowerPoint、Outlook などの生産性アプリと、SharePoint、OneDrive、Teams、Exchange Online などのクラウド サービスを、高度なセキュリティおよびデバイス管理と組み合わせた、クラウドベースのサブスクリプション サービスです。

Microsoft Entra ID
Microsoft Entra ID (旧称 Azure Active Directory) は、Microsoft が提供するクラウドベースの ID およびアクセス管理サービスです。組織は、ユーザーの ID と、社内外のさまざまなリソースへのアクセスを効率的に管理し、保護できます。これらのリソースには、Microsoft 365、Azure プラットフォーム、その他数千もの Software as a Service (SaaS) アプリケーションが含まれます。

Microsoft Graph
Microsoft Graph は、Microsoft Entra ID (旧称 Azure Active Directory) と OAuth 2.0 で保護された REST API です。SharePoint、Outlook、OneDrive、Teams など、Microsoft 365 のデータやサービスにアクセスするための単一のエンドポイントを提供します。

RSS
RSS (Really Simple Syndication) は、Web サイトの更新情報をユーザーやアプリケーションに標準化された機械可読形式で配信するために使用される、一般的な Web フィード形式です。この形式は、ニュース記事、ブログ投稿、その他の頻繁に更新されるコンテンツの配信に広く使用されています。

SharePoint
SharePoint は、コンテンツ管理、ドキュメント管理、ワークフロー アプリケーション、検索、その他のツールを提供する Web ベースのコラボレーション プラッ

トフォームで、従業員やチームが共同で作業できるようにします。SharePoint は、共有情報を保存、整理、アクセスするための安全な場所でもあります。

SharePoint Framework (SPFx)
SharePoint Framework (SPFx) は、SharePoint Online、SharePoint Server (オンプレミス)、Microsoft Teams 向けのクライアント側 Web パーツ、コンポーネント、拡張機能を構築するためのモデルです。SPFx のカスタマイズは JavaScript に基づいており、モダン ユーザー インターフェースをネイティブでサポートします。

SharePoint Online
SharePoint のクラウド版で、Microsoft 365 内の Web ベースのコラボレーション プラットフォームです。組織のデジタル情報、コンテンツ、ナレッジを保存、共有、管理するための幅広い機能を提供します。

Teams アプリ
Teams アプリは、タブ、ボット、メッセージ拡張機能、会議拡張機能などの機能で Microsoft Teams を拡張するアプリケーションです。Teams アプリは、Teams アプリ ストア、AppSource、または組織のカタログを通じて、アプリ パッケージとして配布されます。

Web パーツ
Web パーツは、SharePoint ページに配置される機能やコンテンツの主要な構成要素です。Web パーツの中には、Web パーツの構成や外観の変更など、カスタマイズをサポートするものがあります。

アプリ カタログ
アプリ カタログは、SharePoint、Teams、その他の Microsoft 365 サービス向けのアプリを格納する特別な SharePoint サイトです。グローバル管理者または SharePoint 管理者は、AppSource マーケットプレース、カスタム開発アプリ、サード パーティ製アプリのアプリケーションを、組織の内部使用のためにアップロードして管理できます。テナントには、テナント レベルのアプリ カタログを 1 つだけ作成できます。個々のサイト コレクションには、サイト コレクション アプリ

カタログを追加できます。

リスト

リストは、SharePoint のストレージ単位です。リストには、さまざまな種類の列、コンテンツ タイプ、ビューを含めることができます。ドキュメント ライブラリは特別な種類のリストであるため、リストの機能を継承します。